

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮



平成 25 年 (2013)
御鎮座 950 年祭

平成 23 年 (2011)

平成23年 わかば祭り(春の大祭)号【第90号】
<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

東日本大震災復興を祈る……………	2 頁
わかば祭り(震災復興祈願 春の大祭)案内…	3 頁
杜の話題……………	5 頁
大宮の杜 春から夏へ……………	8 頁
初宮詣芳名・どんぐり通信……………	10 頁
わかば祭り社頭風景……………	12 頁



わかば祭り第一日ノ儀こどもの祭(稚児健康祈願祭)・第33回稚児行列巡行 [5月3日]



今年も春を告げる境内のコブシ(辛夷)の花が咲き、隣の吉野桜が妍を競うよう咲き始めております。東北地方ではコブシが「田打ち桜」と呼ばれ、花を合図に農作業が始まると云う特別な意味を持っていました。その東北地方から関東地方にかけて3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0という世界最大級の大地震と巨大津波が襲来し、加えて福島原発の炉心溶融により放射能汚染の拡散と云う最悪の事態に陥り、これらの危機的状況は將に困難を来たるの感が致します。我が国未曾有の大惨事であり、マスメディアより知らされる風光明媚なりアス式海岸の多くの港町の市街地が一瞬にして壊滅していく惨憺たる被災状況は目を被うばかりでありました。死者・行方不明者実に二万八、〇〇〇名と云われております。犠牲となられた多くの方々に衷心より哀悼の意を捧げる次第であります。

東日本大震災復興を祈る

宮司 鎌日 紀彦

今尚、この時も余震が続く、極寒の中、不便な苦しい環境に置かれている多くの被災者の方々にも、他人事でなく心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご復興と被災者の皆様の安寧を心よりご祈念申し上げます。

この地震、東京地方も震度5.5強で当宮の罹災は表参道の大石燈籠の他に石造物が数基倒壊致しましたが、お陰様でご社殿等建物の損傷も軽微で、参拝者や職員等に怪我も無く無事でありました。

当宮では、お彼岸の20日の午前8時より多くの参列の方々と共に東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)復興祈願祭を斎行し、以後毎朝の御日供祭(朝拝)に併せて震災安鎮復興を祈り、職員等と共に大祓詞を奉唱して熱

を祈り、職員等と共に大祓詞を奉唱して熱を捧げております。又、桜まつりやわかば祭りと続く春の大祭にも東日本大震災復興を祈願してご奉仕させていただきます

天皇陛下のおことばにもある様に『被災者のこれからの苦難の日々を、私たち皆が、様々な形で少しでも多く分かち合っていくことが大切であろう』と広く国民に呼びかけられた大御心を体して出来る限りの物心両面の支援をさせて頂き度く思っております。社頭でも、罹災された神社復興の義捐金箱と被災地義捐金箱を各々設置して募金の呼びかけをさせて頂いております。

東北地方の被災地では一瞬の内に肉親を失い家を壊され、その悲しみを堪えて避難場所へ生活されている様子がテレビで放映されていますが、どの避難所でも整然と並び救援物資を受けておられる姿やボランティアの方々の姿を拝見しておりますと、大惨事の中にあつても見事に共同体意識が維持されている様子が窺い知らされます。とすると自己中心の自分さえ良ければ良いと云う考え方の引きこもりや無縁・孤絶という言葉が一般的風潮になりつつある昨今であります。不安と悲惨等を共有しておられる皆様方が戦後忘れてしまつていた優しさや愛情・勇気などの血縁地縁を越えた連帯感や団結心等が甦つている姿に接しすばらしく感じさせて頂いております。

又、海外メディアも「大地震の後であっても日本人は大混乱に乗じて暴動・略奪を起こすことなくお互いに扶け合い、秩序正しい生活を営みながら復興に備えている姿を驚異と賞賛を持って伝えている」と報じています。

しかし乍ら戦後、欧米より移入の自然は人類の為に在りとする自然を征服し、自然を制圧し、自然を自由自在に操ることが出来ると云う謂ゆる近

代的思想があります。今、発生中の原発事故の危機の深層にはこの近代的思想が存在し、自然の力を自在に操れると云う自惚れた私共人間に対する自然界からの警告なのでしょうか。

古代より日本人は、自然も我々人間もあらゆる生きとして生きるすべてのものは同じ神々から産まれた同胞兄弟であり、自然は自分たちと共存していると云う思想を持ち、云わば自然の営みに日本の霊性を感じていました。謂ゆる神仏の習合、和合、一体の信仰が日本の霊性の実態でありました。霊性とは目に見えないものを見る又は信じる力でもあります。霊性の枯渇が人を思いやり、国のことを考える力をも衰えさせているとも云われております。

今こそ私どもは未曾有のピンチをチャンスに、過つた近代思想を見放し、日本の霊性を取り戻すことが復興の近道であり新たな日本再建の道であろうと思っております。我が国には古来より幾度かの国難(危機)に直面しその都度、美事に克服し不死鳥の様に立ち直つて来たと云う歴史があります。明治維新以後も二つ目に関東大震災よりの復興、二つ目に大東亜戦争敗戦による驚異的な経済復興(但し日本の霊性を忘れていた)、そして今度の大地震よりの復興を「三度目の奇跡」と信じられ内外より期待されているのです。やがて復興庁(院)が官民・体となつて組織されると思われますが、罹災された東北地方が総括的に一体化された復興の青写真を基に、今までの経験と叡智を結集し、全国民が団結して新しい国造りをしていかねばならないと思ひます。

今度の当宮役員総代各位の任期満了に伴い、4月1日付で役員総代が選出されました。新しい陣容の基に平成23年度の祭典行事等、事業活動が始まりました。又平成25年には当宮御鎮座九五〇年祭も斎行されます。今まで同様にご神徳の宣揚に、又氏子・崇敬者の平安の為にお願い申し上げます。ご協力・ご支援の程を宜しくお願ひ申し上げます。

(平二十三、三、三十記)

わかば祭り (春の大祭)

東日本大震災復興祈願

稚児行列では可愛らしいお稚児さん達が



今年も万物芽吹く薫風の若葉青葉の季節が巡って参りました。昨年御祭神應神天皇様の吉千七百年式年祭に年間を通じてご神威の発揚を祈り、その余光が平成25年の当宮御鎮座九五〇年祭に続くことを祈り、更にこの度の東日本大震災復興を併せて祈願しわかば祭り(春の大祭)が5月3日より5日までの間斎行されます。期間中の5日には**当日祭(尚武祭)**が斎行され、皇室国家の安泰・五穀豊穰・震災復興が八幡大神様に祈念されます。3日には**第一日ノ儀**こどもの祭(稚児健康祈願祭) 斎行後、**第33回稚児行列**が行われ、お稚児さんや太鼓山車の子供たちが近隣を巡幸します。そして4日には**第二日ノ儀**が行われ、**第11回挙式者の集い**や「**若葉inおおみや**」の奉納演奏が催され、午後には**植樹祭**が執り行われます。

また「昭和の日」の4月29日は**昭和祭**を斎行、昭和天皇のご聖徳をお称え申し上げます。このほか期間中、春の日差し溢れる境内では**植木市**や盆栽展、うまいもの市など神賑行事が催されます。

大宮八幡植木市

わかば祭り期間中の3日〜5日にかけて、表参道では新緑の風物詩「大宮八幡植木市」が開かれます。

若葉萌ゆる参道に並べられた新緑の苗木や色とりどりの花々を求め、早朝より多くの方々が訪れます。またこれら植木の他に、土や肥料などの園芸用品、露店なども出ており、ぜひ、ご参拝がてらお立ち寄り下さい。



うまいもの市も開催

今年のわかば祭りでは表参道の植木市と併せて「うまいもの市」が期間中の3日〜5日まで開催されます。

この催しは、NPO法人「千年の森フォーラム」の主催に依るもので、移動式の屋台や野菜の販売、昔懐かしの駄菓子や日本香堂の提供によりシャボン玉遊びのコーナーなどの出店が予定されております。

わかば祭り祭典と奉納神賑行事

昭和祭	4月29日
朔旦祭並びに躑躅宵木祭	5月1日
わかば祭り第一日ノ儀	5月3日
こどもの祭(稚児健康祈願祭)	5月3日
第33回稚児行列巡行	5月4日
わかば祭り第二日ノ儀	5月4日
植樹祭(苗木授与先着二〇〇名)	5月4日
わかば祭り当日祭(尚武祭)	5月5日
わかば祭り終了奉告祭(直会乃儀)	5月5日
第8回大宮八幡宮の杜薪能	5月14日
第12回茶道裏千家 献茶式	5月21日
神賑行事	
春の弓道奉納射会	4月29日
古武道奉納演武	5月3日
雅太鼓奉納演奏	5月3日
第11回若葉inおおみや	5月4日
第11回挙式者の集い	5月4日
杉並太鼓奉納演奏	5月4日
野点茶会(裏千家)	5月5日
方南エイサー踊り奉納	5月5日
奉納献燈提灯	4月29日〜5月22日
園児画展	4月29日〜5月22日
みどりの会即売	4月29日・5月3日〜5日
スカウトバザー	5月3日
大宮八幡植木市	5月3日〜5日
うまいもの市	5月3日〜5日
盆栽展示会・即売会	5月3日〜5日
露店	5月3日〜5日

昭和祭齋行

4月29日の昭和の日、午前10時より昭和祭が齋行されます。激動の昭和の時代を国民と共にされ、特に敗戦復興に当たり、経済的にも精神的にも疲弊しきつていた国民に対して御親ら全国をご巡幸され勇気を与えて下さり、今日の我が国の繁栄を導いて下さった昭和天皇のご聖徳に感謝の誠を捧げるべく祭典が執り行われます。

また当日は、春の大祭奉祝弓道奉納射会も行われ、春のうらかな日差しの中、早朝より終日までの射る音が鎮守の杜に響きます。



献燈提灯奉納のご案内

わかば祭りの期間中多くの参拝者をお迎えするに当り、皆様方のお名前（ご社名）を入れた献燈提灯を掲出させて頂き、ご社頭を賑々しくお飾りさせて頂き度く存じおります。

つきましては、左記によりご献燈を賜りたく宜しくお願ひ申し上げます。

掲出期間 4月29日から5月22日まで
初穂料 一燈一〇、〇〇〇円
申込締切 4月24日（郵送は22日必着）

※詳しくは社務所にお問い合わせ下さい。

第八回大宮八幡宮の杜薪能

第八回大宮八幡宮の杜薪能が来たる5月14日（土）、当宮神域で奉納公演されます。この薪能はNPO法人「杉並で能楽を楽しむ会」の主催、当宮の共催、杉並区教育委員会・同区文化協会の後援で開催されているもの。夕刻、境内特設舞台上で火鑽神事により古式に則り熾



（昨年の薪能の様子）



※複数燈でも承ります



られ、新緑の境内に幽玄の世界が現出されます。なお入場には陪観券が必要となります。当宮でも扱っておりますので、お問い合せ下さい。

第十二回裏千家献茶式

恒例の茶道裏千家献茶式が来たる5月21日午前10時より齋行されます。

12回目を迎えた今年はとくに第十六代お家元裏千家今日庵千宗室宗匠直々のご奉仕で大前に濃茶、薄茶が献



ぜられます。加えて境内で行われま

す奉賛添釜茶会は、淡交会東京第六東支部の担当主催で催されます。

また大宮幼稚園では幼稚園茶席が行われ、園児等により可愛いお点前が披露されます。

神賑行事ビックアップ 杉並太鼓奉納演奏

杉並太鼓は、太鼓を通じての「仲間づくり」と「和」の精神をモチーフに、「明るい社会づくりのお役に立ちたい」と願う杉並区内在住・在勤の青年男女で編成された和太鼓の演奏グループです。

杉並区内外で催される各種式典や「杉並区文化フォーラム」など各種イベントへ出演されており、その実力はすでに多くの方々のご知るところ。「ジャンルにこだわることなく、より創造性のある太鼓」を目指し、日夜努力を続けられています。

奉納演奏は4日の午後3時より行われます。どうぞ心行くまでご陪聴下さい。



苗木授与と献木のお願ひ

5月4日（みどりの日）午後2時より、第62回全国植樹祭に因み、当宮みどりの会主催で植樹祭が齋行されます。祭典後、各家庭にも緑を広げる運動の一翼として、植樹祭の祭典にご参列の方々先着二〇〇名様に苗木が授与されます。

また、緑を失うことは国土の荒

廃を招き、人の心をも濁らせます。ご社頭では春に芽吹く緑に人々の心の清らかさと心の潤いを願ひ、鎮守の杜の緑を守り育てようと、皆様方よりの献木のご協賛を承っております。

献木初穂料 一口二、〇〇〇円

※年中を通じて承っております

杜の話題

東日本大震災復興祈願祭齋行



去る3月11日に世界最大級(M9.0)の大地震と大津波の襲来、更に福島原発事故と続く我が国未曾有の大災害、東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)により被災された広域に及ぶ地方の一日も早い復興、そして

日々起こる余震や放射線災害等の鎮静化を祈念して3月20日の午前8時より東日本大震災復興祈願祭を多数のご参列の皆様と共に齋行。その後、毎朝の日供祭(朝拝)でも復興祈願の祝詞を奏上し、職員等による大祓詞を奉唱しております。尚、社頭に於いて同震災により罹災された多くの神社への復興義捐金を(神社本庁の主唱により)募っておりますので、皆様のご支援のご協力をお願い致します。又、一般義捐金はWCRP(世界宗教者平和会議)日本委員会を通じて被災地へ支援されます。



大石灯笼倒壊

被災された地域の皆様方に深甚なるお見舞いを申し上げますとともに、犠牲になられた方々に心より哀悼の意を表します。亦、当宮に對しても全国の神社関係者より心暖まるお見舞いのお言葉を頂戴致し恐縮致しております。お陰様で石造物(表参道大石灯笼など)が数基倒壊致しましたが、ご社殿等建物の損傷も軽微であり、参拝者・職員等の怪我も無く、ご社頭ご安泰・無事に過ごさせて頂いておりますので、他事乍らご休心下さいませようお願い致します。



社頭の初春

元旦午前零時、宮司の打つ一番太鼓の響きとともに平成二十三年辛卯歳が明けました。新春厄除開運大祈禱祭、多摩清水社の若水を汲みご神前にお供えする若水神事や新春祈禱の続く中、午前8時より歳日祭が奉仕され、皇室を中心とする我が国の隆昌と氏子各位の一年の多幸を祈念、この日は立正佼成会庭野日鏡会長様を始め多くの方々のご参拝で境内は賑わいました。



翌2日は恒例の弓の神事、午前10時より宗家小笠原清忠氏ら小笠原流一門により新春除魔神事「曇目の儀・大的式」が奉仕され、境内に鎌倉絵巻が繰り広げられました。そして3日には皇位の大元を寿ぐ元始祭が齋行され、4日からは企業団体の御用始めの新春祈願も相次ぎ、7日には地元元江戸消防記念会第九区七番組の皆さんが出役安全を祈願、大前で木遣が奉納されました。また、15日には古神札焼納祭(どんど焼き神事)を奉仕。30日には香道志野流・東京松隠会の初香会が催され、蜂谷宗慈若宗匠参列のもと開催奉告祭が齋行されました。

新春社頭往来

- 1月1日 立正佼成会会長 庭野日鏡氏他
- 1月2日 五撰家一條家当主 一條實昭氏
- 1月2日 学習院女子大学教授 江口泰広氏
- 小笠原流宗家 小笠原清忠氏
- 1月8日 大國魂神社宮司 猿渡昌盛氏
- 自由民主党幹事長 石原伸晃氏
- 高千穂学園理事長 藤井耐氏
- 俳優 的場浩司氏
- 1月20日 日刊スポーツ新聞社取締役 今村孝二氏
- 1月22日 立正佼成会喜多方教会会長 工藤友子氏
- 1月26日 杉並消防署長 海老原邦雄氏
- 1月30日 香道志野流若宗匠 蜂谷宗慈氏
- 2月3日 五撰家近衛家 近衛忠大氏
- 2月3日 高井戸警察署署長 川口弘氏
- 高井戸懇話会会長 二村裕治氏
- 高井戸防犯協会会長 丸山光男氏
- 高井戸交通安全協会会長 寺嶋寅夫氏
- 2月4日 香取神宮宮司 高橋昭二氏
- 2月14日 五友会会長 山崎真氏
- 3月10日 彌彦神社宮司 永田忠興氏



新春を間近に控えた旧臘26日に氏子各町会及び睦会の若手の皆様12名により、新春の社頭を飾る門松造りが行われました。この門松造りは一昨年からは有志により始められたもの。師走の忙し



い最中の早朝より表参道鳥居前と清涼殿の門松、南参道鳥居の大松飾りを手際良く作り上げ、多くの初詣の参拝者を迎える準備が整えられました。



日刊スポーツ社の祈願祭

日刊スポーツ新聞社の社運隆昌祈願祭が去る1月20日執り行われました。祈願祭には今村取締役始め同社の方々20名が参列、社運隆昌と同社の催事の安全、成功裡の開催が祈願されました。



立正佼成会喜多方教会ご参拝

立正佼成会喜多方教会(工藤友子教会長)の皆様が去る1月22日午

かほり漂う梅ヶ香御守

この度、1月25日の大宮天満宮初天神祭に合わせて期間限定のお守り「大宮天神梅ヶ香御守」が奉製・授与されました。この御守りは、天神様の梅の花にあやかり、梅の香りに抱かれた御守りです。学業成就や芸芸の上達を祈り真心を込めて、巫女達が調整したもので、当日の祭典ご



参列の方々は勿論のこと、合格祈願や就職の成就を願う多くの方に授与されました。

前、当宮に参拝されました。佼成会本部団参の帰路当宮に来宮、工藤教会長始め会員20名の皆様が昇殿参拝されました。

また、同じく立正佼成会の杉並教会松ノ木支部(馬場久枝支部長)の支部会員の皆様の家内安全・身体健勝祈願祭も翌2月の27日に齋行されました。



文化財防火デー消防演習

文化財防火デーの1月26日、当宮恒例の消防演習が実施されました。

午前10時、ご社殿より出火との想定で通報・連絡・避難



誘導や初期消火訓練などを実施、杉並消防署・杉並消防団・当宮自衛消防隊による一斉放水が行われました。訓練には大宮二丁目防災会の皆さんも参加されました。その様子はテレビ東京とジエイコム杉並により

大宮幼稚園の訓練の模様と併せて取材されました。

伊勢参宮初詣旅行京都へ

今回でちょうど30回目を数える新春恒例の伊勢参宮初詣旅行が1月27〜29日に行われました。一行38名は先ず伊勢に入り、外宮次いで内外の御垣内参拝。鳥羽に宿泊。

翌日は京都へ向かい、寛道稚郎子命(應神天皇の皇太子)・應神天皇を祀る世界遺産宇治上神社を参拝。兎に縁の良い神社で、卯年の初めに縁起の良い参拝となりました。

次いで、昨年御鎮座一千五十年を迎えられた当宮の本宮である石清水八幡宮に正式参拝の後、京の奥座敷・湯の花温泉に宿泊。

最終日は京都市内に入都り、世界文化遺産賀茂別雷神社・賀茂御祖神社の両賀茂社を正式参拝後、無事帰着しました。



国旗のある自由画コンクール入賞

今年の(社)国旗協会主催の「国旗のある自由画コンクール」に当園年長組の園児らが応募し、きく組の仁木楽人くんが日の丸のついた宇宙船を描き、見事に銅賞を受賞致しました。

毎月・お朔日参りを致しましょう

毎月1日 朔旦祭
毎月15日 月次祭
どなたでもご自由に
ご参列出来ます。

お友達の祝福の拍手の中、園長先生より賞状が伝達されみんなでお喜び合いました。



「くらしの中の神祭り」講話

朝日カルチャーセンターと朝日JTBによる交流文化塾「日本の原点・神社を訪ねて」が去る2月12日、当宮で催されました。

当日午後、正式参拝の後、清涼殿にて宮司講話及び質疑応答が行われ、宮司が「くらしの中の神祭り」と題し講話。「日本人は無宗教と云われるが深層の宗教意識として伝統的精神文化の神道が存在する。神道とは神祭りであり、神祭りとは神々のご接待、神々をお迎えし、お祀りし、お送りすること。それはお正月の歳神様や盆の行事として各家庭でも行われてきた」とし、家族崩壊



道とは神祭りであり、神祭りとは神々のご接待、神々をお迎えし、お祀りし、お送りすること。それはお正月の歳神様や盆の行事として各家庭でも行われてきた」とし、家族崩壊

大宮八幡宮
新役員・総代
 代表役員宮司
 鎌田 紀彦

責任役員

五本木 徳治
 梅田 清治
 瀬沼 寿男
 藤枝 宏友
 大塚 喜一
 岩崎 太良

議長

黒澤 浩一
 飯高 朝資
 浅川 静男
 藤枝 宏友
 森川 純一郎
 葉梨 俊郎

監査

齊藤 洋一
 鈴木 憲章
 葉梨 俊郎

総代

大宮地区
 五本木 徳治
 荒井 昭雄
 関井 又樹
 小松 春雄
 青木 龍男
 末柄 哲男

方南地区

三枝 栄治
 黒澤 浩一
 大塚 喜一
 相塚 真雄
 三枝 誠一郎
 内山 治郎

方北地区

岩田 文雄
 広田 圭夫
 岩崎 美夫
 齊藤 太郎
 鈴木 憲章
 細野 修三

和田東地区

梅田 清夫
 松野 康夫
 佐野 晃央
 野藤 洋一
 笠原 紀一
 笠原 恭男

和田西地区

飯高 朝資
 浅川 静男
 藤枝 宏友
 森川 純一郎
 葉梨 俊郎

松ノ木地区

一男 四郎
 四男 寿郎
 忠男 正一
 文治 武治
 松島 武治

相談役

高橋 住雄
 田木 千城夫

兼務神社総代会長

堀ノ内熊野神社
 大高 正朝
 成宗白山神社
 岩田 和保
 尾崎熊野神社
 安藤 雄次

第30回 馬塔観音祭斎行

が叫ばれる中、祭りによる家庭の復活を訴えました。次いで参加者は当宮神職の案内で境内を散策、社叢の春の息吹を感じておられました。

昭和57年に第一回目の祭典が行われてより30回目の馬塔観音祭が2月13日に八幡前通りの馬塔観音で執り行われました。

昭和3年にこの地で急逝した白馬(宮春号)の供養塔を建立された五本木鎌吉氏のご子息である五本木徳治氏(当宮責任役員)を代表と

責任役員並総代 改選

去る4月1日、任期満了に伴う当宮責任役員・総代の改選が行われ、総代37名(欠員3名)を選出、午前10時より朔旦祭に併せて斎行された総代就任奉告祭で宮司より委嘱状が新総代に伝達されました。

また同日午後4時より改選後初の総代会を開催。まづ神社規則第十條により責任役員を選出後、議長、監査を選出。平成23年度事業計画及び予算等の議件を報告し、満場一致で承認されました。

新役員総代の任期は、平成23年4月1日～平成26年3月31日までの3年間です。
 尚、この度ご退任の前責任役員のお二方には相談役に就任頂きました。

する世話人・近隣の皆様をご参列され、この通りを行き交う人々の交通の安全を祈念致しました。

**大宮・松ノ木界隈を
 青少年育成委員・地域を知ろう研修**



堀松梅宮青少年育成委員会(松島四郎会長)の平成22年度第二回委員研修会が3月9日午前行われました。

委員研修会は「地域を知ろう」とのテーマで堀内・松ノ木・梅里・大宮の青少年育成委員会委員と各小・中校PTAが参加。第一回の堀内地区に続き今回は大宮・松ノ木地区界限を実施。「東京・和人大宮の研究」著者、萩原弘道氏の案内で済美台遺跡から郷土博物館、松ノ木遺跡を巡り当宮に参拝、境内を散策されました。

むさしの保育園児ら参拝

3月23日、和田所在のむさしの保育園の園児ら19名が手作りの絵馬を納めて参拝致しました。それぞれが作った絵馬にお願い事と絵を描き、それらを三方に載



せてご神前にお供えしお祓い。お願い事が叶いますようにと玉串をお供えしてお参りました。
 奉納された絵馬は、天神様の絵馬掛けに納められました。

大震災復興祈願 神楽の奉奏を

当宮では桜の開花に合わせ桜まつりを実施しておりますが、本年は東日本大震災復興を願ひ、4月3日と9日の夕刻、東日本大震災復興祈願 神楽と神楽の夕べを開催。

9日は午後6時より、先ず祈願詞を奏上し、神職と参列の皆様が一体となつて大祓詞を奉唱。管弦「五常楽」が神前に奉奏され、大震災犠牲者の慰霊と鎮魂、今尚続く余震や放射線等災害の安鎮、更にも早い復興を祈念致しました。祭典後、宮城県岩沼市を訪れた当宮提督権禰宜が見聞した被災状況の報告と復興義捐金を呼びかけました。



遠宮で結ぶ人の輪心の輪
 第六十二回神宮式年遷宮

第六十二回神宮式年遷宮に

真心からのご奉賛を致しましょう

大宮八幡の杜 春から夏へ

水無月夏越の大祓

大祓とは、日常生活を営む上で知らず知らずにして犯してしまった罪や穢を祓い清める神事で、6月晦日の30日に行われる大祓いの神事を夏越の大祓と言います。この大祓は午後4時より執り行われ、神職が大祓詞を宣読した後、人形に各々の心身の罪・穢れを移して祓い清めた後、茅を束ねた茅の輪を左廻り・右廻り・左廻りと三回くぐる茅の輪神事が執り行われます。



おぼろえことば 大祓詞書写会

当宮の教化活動の一環として、りんどう会と共催の大宮八幡塾「水無月書写会」(大祓詞書写会)が、夏越の大祓に併せ、今年も6月18日より26日までの9日間開催されます。この書写会は心静かに真心を込めて「大祓詞」(約900字)を書写し、奉



納することにより大神様のご神徳を戴こうというもの。祭典や祈願祭のお祓いの際に神職が奏上する「祓詞」(約90字)や、ひらがなのみの簡単なお祓いの言葉もありますので、ご参拝の方々、親子連れでお気軽にご参加頂きます。

平安の雅第13回乞巧奠飾りと大宮八幡乞巧潜り神事

平安の七夕を現代に再現する第13回「乞巧奠飾り」が、7月1日より15日の間、清涼殿ロビーに展示されます。乞巧奠は我が国の棚機つ女の信仰と中国の星祭りが重なって、宮中を中心に行われた技芸上達を祈る行事です。期間中、神門前には梶の葉や五色の布を垂らした平成の七夕「大宮八幡乞巧潜り」が設けられ、天神祭りの25日までの期間限定で学業や技芸の上達を祈願する「乞巧守」が授与されます。これは、笹竹に梶の葉と紅白の七夕人形が付けられた御守で、神職と巫女が一つ一つ手作りで奉製しております。



七夕7日の午後6時には「七夕の神遊び・技芸上達祈願祭」を斎行。続いて乞巧潜りを三度潜る大宮八幡乞巧潜り神事を参列の方とともにを行います。また、日曜日の3日と10日午後5時より乞巧奠飾り前にて「雅楽の夕べ」(雅楽と神楽舞)が、当宮職員らにより奉奏されます。乞巧潜りに併せて神門には大笹竹も立てられ、ご参拝の皆様の願いを込めた短冊をご自由に結んで頂きます。



りんどう会だより

当宮敬神婦人会(りんどう会)では、1月15日の厄除ぜんざい奉仕に続き、2月6日には新年会が開催されました。会員36名はご社殿にて奉告参拝のあと、日本舞踊やフラダンスの披露・合唱・プレゼント交換など、楽しいひとときを過ごし親睦を深めました。又、昭和祭前日の4月28日には、春の大祭の前に御垣内清掃奉仕が行われました。同会では随時会員を募集しておりますので、ご入会希望の方はお気軽に事務局(社務所)へお申し出下さい。



「安産絵馬と母子緒守」授与
この春より安産祈願のご祈禱をお受けになられた願主様に安産腹帯(岩田帯)と共に「安産祈願絵馬」と「母子緒守」を授与しております。このお守りには、へその緒で結ばれたお母様とお子様ご健康にご出産の時を迎えられますようにとの願いが込められております。



戌の日詣りは子育八幡さまの当宮で
安産祈願のご祈禱を！
ご祈願の方には安産腹帯(岩田帯)・安産祈願絵馬・母子緒守を授与しております
子授け祈願・初宮詣も随時お受けしております

戌の日早見表

(平成23年5月～平成23年9月)

9月	8月	7月	6月	5月
4日(日)	11日(木)	6日(水)	12日(日)	7日(土)
16日(金)	23日(火)	18日(月)	24日(金)	19日(木)
28日(水)		30日(土)		31日(火)

赤字の日付は大安吉日です

納涼大宮天神まつり 杜のひびきinおおみや



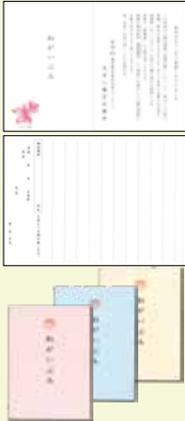
今年も夏の風物詩「第11回納涼大宮天神まつり」が7月25日に大宮天満宮で行われます。当日夕刻には、崇敬者や幼稚園園児・近隣の小中学校よりご奉納戴いた書画行燈(二〇〇基)に灯りが点され、「大宮天神祭」が斎行されます。そして祭典

のあと、参列の子供達により「あかり神輿」が大宮天神まつりが天満宮より神門前広場まで元氣よく担がれます。これに続きご社殿前では、午後6時半より、「杜のひびきinおおみや」(時間を外した日の祭事)として太鼓奏者響道冥氏等による奉納演奏があり、またお子様方を対象とした「子供のミニ花火の集い」も併せて催されます。

ねがいぶみりリニューアル

ねがいぶみは、参拝者が八幡大神様に直接お願いしたいこと、悩みごとや誓い・感謝・御礼の気持ち等を心を込めて自由に書き込み頂き、初穂料を添えてお納め頂き、毎朝の御日供祭でご神前にお供えして、大神様にご奉告させて頂いております。

昨年暮れより封筒・用紙をリニューアルし、封筒は3種(桃色・水色・黄色)、用紙は境内に咲く花の絵が



月毎にあしらわれています。これからも当宮では、ご参拝の皆様が大神様に心を込めて祈りと感謝のお参りが出来ますようより良い環境作りを目指します。

おみこしワッショイ

昨年より納涼大宮天神まつりに、手作りの神輿「あかり神輿」の巡幸を行っております。和紙を貼った神輿に、幼稚園の先生方が絵を描き、当日は中に灯りが入れられ、薄暗くなつた境内を練り歩きます。ご参加のお子様には、お菓子のプレゼントがあり、飛び入りの参加も出来ますので、どうぞ皆様奮ってお参り下さい。

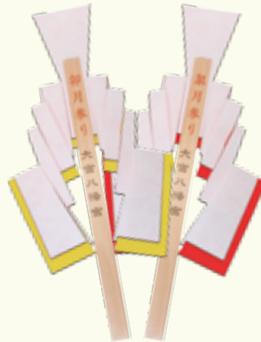


第28回戦没者慰霊祭

大宮八幡宮戦没者慰霊祭実行委員会主催により第28回戦没者慰霊祭が終戦記念日の8月15日の正午より斎行されます。

お朔旦参り 「月参り御幣」を授与

当宮では古くより朔旦(二日)、十五日に月参りをされる参拝者の方々が多く、こうした方々に年間を通じて八幡大神様のご神威をお受け頂こうと、本年年頭より毎月の朔旦祭に合わせてお朔旦参り「月参り御幣」の祈禱を奉仕しております。



大宮八幡宮が育成母体 BS・GSスカウト募集



お問い合わせは、当宮社務所へ

ボーイスカウト 杉並13団
ガールスカウト 東京62団
小学一年生から
各学年ごとに入団出来ます

春の大祭後の主な行事

- 御嶽様名神社例祭 5月16日
- 第32回大宮まつき展 5月下旬〜6月上旬
- 大祓詞書写会 6月18日〜26日
- 夏越の大祓・茅の輪くぐり 6月30日
- 第13回乞巧奠飾り 7月1日〜15日
- 大宮八幡乞巧潜り神事 7月1日〜15日
- 雅楽の夕べ(雅楽と神楽舞) 7月3日・10日
- 七夕の神遊び(投巻子達祈願祭) 7月7日
- 第11回納涼大宮天神祭り 書画行燈掲出 7月25日
- 第11回杜のひびきinおおみや(和太鼓演奏) 7月25日
- 多摩清水社例祭(水神祭) 8月1日
- 第28回戦没者慰霊祭 8月15日
- 第11回十五夜の神遊び(十三夜) 10月9日

大宮八幡祭り(秋の大祭) 祭典日程のお知らせ

- 本年度の大宮八幡祭り(秋の大祭)は左記の日程により斎行されます。
- *例祭は9月15日(木)に斎行する
- *神輿神霊入・若宮八幡神社並白幡宮例祭は9月16日(金)に斎行する
- *宵宮祭は9月17日(土)に斎行する
- *氏子奉幣祭(奉祝当日祭)・神輿合同宮入は9月18日(日)に斎行する
- *神輿神霊返は9月19日(祝)に斎行する

初宮詣芳名

(平成22年11月24日〜平成23年3月21日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

西田宗石 広瀬瑞子 横森百香 木田彩花
 中井康晴 清水未蘭 岩崎浩士 鈴木大河
 渡辺颯 小林美生 山口慧太 工藤麗愛
 曾宮大登 黄川田湧 潮田敦 田中詩帆
 松田結希 谷垣響彩 小澤遼大 上原安祐香
 小園ひなた 小池花奈 米岡怜愛 石川連也
 黒田一喜 神余岳 有倉愛莉 洞口音哉
 和田環希 小野等恵美 竹綱大智 野田薫平
 谷口漣 藤村心虹 渡邊琉太郎 海老原美音
 松尾斗睦 岸茉莉香 竹内陽香 石井優成
 小池隼 水藻康統 天野恵衣 林薫音
 高橋遼 福井諒太 飯田優 中村涼乃
 高橋潤 林虎輝 中川美温 岩崎波琉
 新川環瑠奈 青木汐里 池田ちえ璃 三浦瑛登
 亨原理子 赤羽洋希 廣田智子 八巻了
 原田優衣 阿井悠太 遠藤理瑠 村瀬美月
 藤澤奈々 河野利子 木野内楓 八田和奏
 二宮水汐 佐安木 松澤慶 山下蘭
 島津祐吾 クリト杏 中川結太郎 金原麻琴
 荒田瀬史 伊藤結生 片山路人 外島圭祐
 飯塚花 戸井田衣都 安井幹太郎 高橋明香里
 牟田友里子 宮田真太郎 浅尾侑花 五木木美潤
 大森佑馬 花岡悠太 加藤優愛 黒丸周平
 藤原蒼 渡辺怜未 畑野明里 亀江瑞希
 田中優成 加藤夢乃 嶋野利奈 佐野有哉
 守田はな 宮野真緒 梶谷律生 荻野芽生
 浅野茶茶 齊藤耕助 野村昇輝 福田太斗
 岡海英 池谷陽音 池田結月 中村杏奈
 平山虎太郎 鈴木陸和 川端紗世 松崎慈英

中川陽翔 佐藤慧斗 俵颯祐 貴島健心
 齊藤友李 有本祐進 杉山弥竹 渡辺賢
 本庄紗彩 寺山諒 大内優奈 木村匠吾
 久慈采花 佐久間旭郎 黒木杏美 茨城拓希
 鈴木葵 村上もも 高橋のん 梅田和良
 谷優奈 天野季咲 海老澤伸歩 堀内悠瑞
 石川義徳 駒形祐樹 高橋滄生 比嘉弘大
 田中志帆 中山幸大 今井清太郎 佐藤彰哉
 星野結衣 守屋惟吹 村井椿 赤坂陽愛
 ホルツミ 樋口えみ 齊藤悠真 江口紗羅
 アシナ 松本和奏 小野寺陽彦 榎本朋晃
 西亀一華 野崎翔 上田裕月 柳葉葵
 福浦大空 大原もあな 黒瀬桂志 大川凜寛
 谷口純音 小澤くるみ 津田安佳里 高橋幸明
 泉谷香帆 堀之内悠 松田紗穂 叶内晴貴
 アズナ 加藤瑞貴 持原咲 我妻咲綾
 秀島海翔 田中秀樹 持原郁 佐藤真翔
 足龍之介 飯田のあ 萩谷七菜 大出智弓
 田中留々妃 鳥澤康将 網永拓斗 宮本旬
 赤根稟理 久松優 山田美伶 シベ
 小畑慶 大槻潤世 本谷弦 フジテン
 長谷川海斗 村田碧心 浅岡利奈 隆虎
 滝沢奈々 栗原明日美 竹林架音 林すみれ
 生松寧彩 高見蓮蓮 正木雄大 大石陽菜
 高山友碧 筒井海翔 篠田明穂 佐藤悠祐
 小嶋莉花 林川真大 福山さゆり 安藤漣
 岡山翠れん 坊野萌 齋藤裕 吉田柚衣
 伊藤晴琉 北村昊音 青木美里 北村優菜
 澤田音夢 山野果穂 渡辺苺香 大野真奈
 岩本あま 島田佳奈 山越悠悠 合屋蒼志
 福島帆乃佳 高橋希心 久保真美 多田ゆうき
 渡辺拓人 石井杜奈 富永杏奈 當谷藍
 米谷心希 古我旬 東俊輝 登勇樹虎
 東海林朔 富永怜那 猪郷知花子 太田ちとせ
 宗形玲那 坂碧海 野中駿 矢口リリア



大きくなったよ、パーティー

年少組の子ども達が初めて舞台上に立つて発表する「大きくなったよ、パーティー」。最初に9曲の中から、自分が踊りたい曲を選び、練習を始めます。入園してから、目の前の事で一杯だった子ども達が個々に名前を呼ばなくても、「○○を踊るお友達、来てください。」と言うと、自分だと気付いて集まったり、「○○くん(ちゃん)もだよ?」と曲が同じお友達を呼びあったり、周りを見てしっかりと行動する姿がありました。

また、「まだ私の前では踊ってくれないのですよ。」というお母様方の声。子ども達が密かに驚かせようと考えていたことで、さらに期待溢れるものになりました。



本番前の練習の時には、舞台の下で見ている私を不安そうに見ながら「踊っていたら大丈夫。先生見ているからね。」と声を掛け、練習を重ねました。そして本番当日、曲が始まり、そこにあったのは、私の目

第61回 大宮幼稚園卒園式

第61回大宮幼稚園卒園式を3月19日に挙行政致しました。当日はとても良い天気にも恵まれましたが、今が続く東日本大震災の余震が心配され不測の事態が発生しないことを願いながらも、ご本殿に於いて卒園奉告祭を、清涼殿に於いては卒園式を、幼稚園保育室では謝恩会と卒園記念写真撮影が、それぞれ執り進められました。

無事に一日の行事が済み、大神様が見守って下さったことに感謝するとともに、この度の地震で被災された方々の地域では、卒園式も儘ならぬ事と心が痛みました。

を見ることなく、まっすぐ前を見て堂々と踊る姿でした。まるで、舞台下で見守る私に「先生、大きくなったよ。」と体で表現してくれているように思いました。

年中組に進級する喜びと、これからは子どもが私達に、ふと伝えてくれる「大きくなったよ」を感じながら、日々、見守っていききたいと改めて思う日となりました。

教諭 岩坪加奈

- | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 西川 徹 | 清水琥鉄 | 植村美那子 | 定月ころ | 西野友香 | 浅岡美海 | 村山雪乃 | 細貝萌名 |
| 田中咲羽 | 竹尾美晴 | 山崎惠介 | 大木陽太 | 橋本涼太 | 山崎春陽 | 河本焯 | 大久保実生 |
| 片桐颯亮 | 笠木颯太 | 降旗一真 | 永井航太 | 西悠 | 遠藤香音 | 横山舞乃 | 永瀬太人 |
| 森本悠心 | 武井千代子 | 渡邊佳歩 | 吉田さくら | 関口瑠香 | 宇都菜 | 森野日葵 | 藤田彩愛 |
| 藤田有乃 | 杉原めいみ | 西畑絢音 | 金井琉惺 | 窪田律 | 田井心麗 | 田中真歩 | 平野真菜 |
| 田代愛純 | 村田蓮 | 元木宏音 | 平聖 | 山下佳修 | 中村紫栄 | 大岩理央 | 田村凌都 |
| 石川希生 | 小島寛大 | 川口大河 | 岡千聖 | 町井景 | 入子莉彩 | 新川亮 | 小口心愛 |
| 曾田陽斗 | 加藤この | 垣並袖綺 | 衣原大貴 | 小西優衣 | 村上穂高 | 新川倫 | 山田怜 |
| 大園琴美 | 萩野伶奈 | 吉村優汰 | 大川原結芽 | 関谷彩菜 | 村上愛花 | 鴨原沙織 | 村菜々子 |
| 大園柚希 | 田口ゆうゆ | 齋藤結喜 | 中澤建人 | 笹間と乃 | 梅原望 | 丸石菜結 | 梶谷亮仁 |
| 中島唯 | 永吉恵一 | 知識佳鈴 | 室越風史朗 | 磯崎康太 | 渡邉司 | 栗原優奈 | 黒田大晴 |
| 竹原由樹 | 磯村奏衣 | 井内塔丸 | 澤村真 | 上田理緒 | 田中彩通 | 民輪仁菜 | 宮口いづき |
| 加藤颯糸 | 山口美月 | 宇都宮明人 | 奥田莞士 | 久保椋平 | 清水新太 | 大河原真 | 石津陽希 |
| 利根悠篤 | 水上孟土 | 沼田響子 | 香月美咲 | 蒼瀧小太郎 | 武井佳奈 | 長川佑太 | |
| 三浦駿人 | 前田悠稀 | 宮崎陽大 | 笹嶋瑛悟 | 新田みゆ | 中島春 | 岩城正和 | |
| 大岩歩未 | 松本鳳 | 鼻戸雪乃 | 清水宏美子 | 橋本紗矢香 | 岡野多生 | 吉田晴真 | |
| 後田梨々華 | 中根温 | 鈴木陽斗 | 三木虎汰朗 | 高野江灯 | 大島理彩 | 鈴石新 | |
| 太田悠閑 | 上山由佳 | 望月菜 | 大平椿乃 | 竹内聖留縁 | 坂口環愛 | 後藤雪菜 | |
| 堀江匠人 | 上屋大駕 | 福岡諷司 | 寺澤那凞 | 廣瀬帆乃花 | 植田しおん | 秋元翔太 | |
| 杉田美月 | 堀田秀裕 | 川端晃菜 | 大野尚浩 | 三浦歩 | 松山美瑠亜 | 大類悠 | |
| 飯野見律 | 大竹美冬 | 谷藤くら | 古川稲生 | 米山来波 | 篠原崇祐 | 川畑友音 | |
| 北島颯真 | レオン美嘉 | 西村陸 | 砂長空汰 | 古谷真那 | 高山陽花 | 上乃真幸 | |
| 黒木陸杜 | 池田雪 | 松平隼士 | 岡本利緒 | 稲垣芽恵 | 加藤茜茜 | 栗林ころ | |
| 松崎陽大 | 角田心陽 | 伊藤史道 | 杉山那優 | 稲葉優樹 | 依田健希 | 大前龍偉 | |
| 武田美里 | 早野航大 | 放生侑奈 | 山口真奈 | 関湖太郎 | 依田康希 | 小池麻理恵 | |
| 加藤せひ | 十肥瑠星 | 中水彩湖 | 石井晴貴 | 小塚世誠 | 谷川平蔵 | 橋本佳代子 | |
| 信夢コン | 田中優也 | 當間花音 | 宇賀友花 | 黒田悠平 | 神田大輝 | 林璃都 | |
| 宮田紫月 | 村山涼太 | 祖山朋笑 | 出雲冬琉 | 立川桜衣 | 有馬稀良 | 柘植勇輝 | |
| 黒田琴巳 | 市川瑚壁 | 田畑紅愛 | 福田圭太 | 木村優奈 | 久次米善吾 | 高安琴葉 | |
| 吉松奈那子 | 三橋拓未 | ライト悠空 | 濱中綾乃 | 小島佑太 | 小山寛太郎 | 笠嶋颯佑 | |
| 秦梨華 | 新井昂琉 | 藤田ちはる | 佐々木登梧 | 西井陽義 | 谷岡結衣 | 荻野凜羽 | |
| 長谷川大輝 | 森陽菜乃 | 掛川実来 | 山下遥叶 | 今野志温 | 水谷実来 | 澁谷昌樹 | |
| 大島陽矢 | 神谷宏樹 | 大澤由奈 | ピーターソン | 城戸結加 | 高橋里緒 | 吉本有輝 | |
| 岩田聖広 | 馬場麗讀 | 十屋寅 | ゾレイ臂 | 緑川凜 | 安室知真 | 新木惺大 | |
| 大高有真 | 廣瀬凜久 | 小笠原碧久 | 角井柚希 | | | | |

祝 初宮詣で

古くよりわが国では子供は大神様・ご先祖様よりの授かりものとして七才までは「神の子」として大切に育ててきました。そしてこの幼な児が初めて神々と対面する儀礼が初宮詣（お宮参り）です。一般に、男児が三十二日目、女児が三十三日目以降と云われますが、生後一カ月間沐浴して、罪穢に触れないよう慎む期間を経て、神様へのご挨拶とお子様のお健やかなる成長を祈願する神事です。そして、この神祭りの後、神酒やお供えの神饌を頂戴することを直会と云い、この直会によって大神様のお力を戴きます。

故に家族団欒の中での饗膳（ご会食）は、まさに八幡大神様のお恵みを戴く直会であり、最高の御膳なのです。初宮詣の他にもお喰初のお祝いや七五三詣など、様々な人生儀礼のお祝いでご利用頂きます。尚、お子さま用料理もございますのでお気軽にご相談下さい。



七五三詣

七五三衣裳展示会7月2日より

毎日朝10時～夕方5時まで開催

七五三年齢表	
七歳 女児	平成 17 年生
五歳 男児	平成 19 年生
三歳 男・女児	平成 21 年生

※生まれ年と年齢は数え年によるものです。満年齢でお受け頂いても差し支えございません。

結婚式挙式者芳名 (敬称略)
 平成23年1月1日〜平成23年4月5日
 石黒浩志・文子 松井隆政・明奈
 川端徹・佑美 増尾俊彦・みどり

緑豊かな都心の杜。感動の瞬間

初宮詣 衣裳・美容着付・写真・集宴会 初宮饗膳(ご会食)など承ります。

清潔殿 03(3312)7515

わかば祭り 東日本大震災復興祈願 (春の大祭) 5月3日~5日

わかば祭り 当日祭 (尚武祭) [5日]



神楽「朝日子舞」奉奏 (園児)



総代等揃って玉串拝礼



祭典を畢え齋館へ退下

わかば祭り 第一日ノ儀 こどもの祭 (稚児健康祈願祭) [3日]

稚児行列には、鼓笛隊・スカウト・猿田彦・役員総代・こども太鼓山車など多くの供奉が



八幡前通りをお宮に向かって進行



猿田彦の先導で



若葉生い茂る参道を行く



古武道奉納演武 [3日]



太鼓山車奉納の子供達と囃会 [3日]



稚太鼓奉納演奏 [3日]



第一日ノ儀(筆式者参列) [4日]



若葉inおのみや奉納演奏 [4日]



植樹祭苗木配布先着20名 [4日]



裏千家野点茶会 [5日]



方南エイサー踊り [5日]

大 宮 第90号
 平成23年 春の大祭号
 平成23年5月1日発行
 大宮八幡宮社務所
 〒168-8570
 東京都杉並区大宮2-3-1
 電話 (3311)0105 FAX(3318)6100
 Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp

境内では、植木市他連日神賑行事が奉納されます [3日~5日]